

## 令和2年度の研究(または活動)内容

当研究所は、地域の資源や環境を活かして価値を生み出す「地技(じわざ)」を再評価し、個々の動きを結びつけながら発展・継承させ、地域固有の美しい景観醸成につなげることを目標とし、地技を用いた生業がおりなす地域固有の景観を「生業景(なりわいけい)」と名づけ、建築・工芸・民俗・生活学などの観点からそのアーキテクチャ(形成構造や育成手法)を探るとともに、各地の取り組みに対してデザイン協力や実践的研究を進めることとしている。2年目は、計5回のリモート会議(6/22, 8/24, 10/28, 12/17, 3/18)を重ねたほか、以下の研究活動等を主に実施した。

### 1 調査研究活動

#### (1) 科学技術振興機構・社会技術研究開発センター「多世代共創ハンドブック」における採録

前身研究である上記機関による受託研究「農山漁村共同アトリエ群による産業の再構築と多彩な生活景の醸成」での研究成果や当研究所の内容が、次年度に発刊されるハンドブックに採録されることとなり、制作に協力した。生業景デザインの概念が発信されることが期待される。

#### (2) 受託研究「国選定保存技術石盤葺保持者30の技法」の編集業務

前年度に引き続き、陸前スレート建築に関する一連の継続研究の一環でもある調査研究として、掲題の業務を受託した。基本的な編集・筆耕・作図等を終え、次年度は最終校正を進める(図)。

### 2 地域の課題や可能性に立脚した実践的研究・制作等

#### (3) 雄勝硯生産販売協同組合「いしのわ会議」の継続と採石場再生計画

これまでの本学としての調査研究・復興支援に続く内容であると同時に、陸前スレート建築に関する一連の継続研究の一環でもあることから参画している。とくに当研究所の阿部と大沼は、採石場の再生方策について検討を重ねているが、課題は山積しており、次年度も継続予定である(写真1)。

#### (4) 加美町「工芸藍学舎」の移転再生計画とスレート再利用相談

東北一円の若手工芸作家を支えながら、自らも染織家として活躍している笠原博司氏が主宰するアトリエ・ショップが移転再生されることとなり、その一部にスレートを葺きたいという相談を頂いたことから協力・研究が始まった。石材活用という単一目的のみならず、地技/手技の卓越した人々が集う生業空間に関する重要な知見が得られる可能性があり、今後も連携を図っていく(写真2)。

#### (5) 登米市津山町道の駅津山の再生計画・ツリーハウス設置構想

東北工業大学が計画等に寄与した当施設は、2019年度の豪雨災害でダメージを受けると同時に、三陸道の開通に伴い抜本的な改革を迫られており、そのランドデザインに対し「地域のくらし共創デザイン研究所」「マーケティングサポート研究所」等とともに協力することとしている。新たな価値創出の一環として音楽ツリーハウスの提案(学生作品)も草案に寄与し、次年度から本格化する。

#### (6) 太白区・ながまちヤタイ広場プロジェクト協力相談

仙台市のなかでも突出して流入人口が多い長町駅周辺において、旧住民と新住民のコミュニティ再構築、周辺一円からの顧客獲得をねらった駅前広場等の空間再生が求められており、太白区まちづくり推進課経由で相談があった。具体的には、かつて協力していたセンダイヤタイに着想を得て、長町

らしい公共空間のデザインを模索するという案件であり、次年度からの本格実施に向けて協議をはじめた。

### 3 社会的な研究・開発等への貢献活動

(7) 日本建築家協会「みやぎボイス 2020」コーディネーター(10/24)

東日本大震災からの復興について立場を超えて課題を共有する継続的催事で、日本建築家協会東北支部宮城地域会を事務局とする連絡協議会が実施運営している。今回は「復興検証の検証を望む声」と題し、今一度、この10年の歩みを振り返る機会となった。ここで、復興プロセスに決定的に欠けていた「生業」の問題を指摘すべく、キーパーソンを交えて談義を行った(写真3)。

(8) 東北経済産業局:復興・創生期間後に向けた東北のブランド価値向上および関係人口創出に関する調査事業:東北のブランド価値向上に関するワーキンググループ座長および東北経済産業局:TOHOKU リブランディング会議ファシリテーター(3/18)

震災復興・創生期間が終了すると、急速に公共事業は減り、復興に関わる関係人口が減少することが見込まれている。このことに備え、パラダイムシフトとなった震災をきっかけとして得た新しい価値規範や人脈を活かし、東北の未来像を描きたいと、東北経産局の若手が設置した会議体であり、ワーキンググループの座長を仰せつかり、当研究所とも呼応するような各地の取り組みを情報共有した。



図 石盤葺技術記録のための作図(阿部正)



写真1 雄勝明神山の採石場(操業停止中)



写真2 工芸ギャラリーへの再生を図る遺構



写真3 みやぎボイス 2020(smt, 10/24)